

荒川から地球が見えてくる!

川ゴミはもはや他人事ではない?

皆さんは「太平洋ゴミベルト」をご存知でしょうか。サンフランシスコとハワイのほぼ中間にあたる、北太平洋にあるのですが、この海域では、海流が収束し、様々な種類のプラスチックゴミが集積しています。太平洋ゴミベルトでは、破片類やペットボトルキャップも多いのですが、目に見えないほど細かくなった

プラスチックゴミも多く、その重量は、魚などの餌となるプランクトンの約6倍と推定。それらのゴミを鳥や魚介類が餌と間違えて飲み込み、死に至る被害が後を絶ちません。

また、釣り糸などのゴミが絡みつくなどして生き物を苦しめることも、世界の海から報告されています。

これらのゴミはどこから出るのでしょうか？ 実はその多くが、私たちが住む町からなのです。排水溝の水・下水や、遠くから風で飛ばされてくるゴミが川に入り、海まで辿りついているのです。

私たちが普段出しているゴミが、川や海で多くの命を奪っています。そして、これは鳥や魚だけの問題ではないのです。それらを食べる、

食物連鎖の上位にある人間にも被害が及ばないとも限りません。つまり、海ゴミ、川ゴミ、町ゴミは、私たちにとっても重要な問題なのです。

ゴミ問題を考え、普段の生活でちょっとした工夫をすること。そして身近なゴミを拾うこと。それは、私たち自身を守ることもつながるのです。

身のまわりのゴミが、川や海に住む生き物の命を脅かす。

